

11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

[1]基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

(1)個別事業等に関連した実践的・試行的な活動の内容・結果等

1) 中心市街地の来街魅力の強化に向けた試みについて

【これまでの高松丸亀町商店街振興組合の取組】

高松丸亀町商店街では、瀬戸大橋開通の年の昭和63年に、高松城築城400年に合わせて「開町400年祭」として108日間に及ぶロングイベントを開催し、多くの人々で街は活気にあふれました。その400年祭を目前とした昭和58年、休日3万人を超える通行量が見られるにぎわいの中で、「100年後を目指したまちづくり」が必要との理事長の意を受けて、青年会を中心に大学教授なども含めて研究を行いました。

その結果、「物販に特化しすぎた丸亀町は今後100年間にわたって市民の理解は得られない」「市民広場・公園、イベントホール、駐輪場、駐車場、休憩施設、トイレ、レストラン等飲食機能、生鮮市場、居住施設などの物販以外の機能強化が必要」「ものを買うだけのまちから、時間消費型のまちにつくり変えること」の3点が答申として出されました。

これを踏まえて、丸亀町商店街では、イベント事業、イベントホール「丸亀町レッツ」及びカルチャー館の整備、駐車場事業、カード事業、まちバス運行など「100年後を目指したまちづくり」が進められてきました。

テナントミックスやデザインコードを実践する、高松丸亀町商店街のタウンマネジメントによるまちづくりの第一段として、平成18年12月に、高松丸亀町商店街A街区市街地再開発事業による高松丸亀町壱番街がオープンしたほか、B・C街区でも平成21年から22年にかけて一部の再開発ビルがオープン、さらには平成24年4月にG街区で「丸亀町グリーン」がオープンし、歩行者通行量が大幅に増加するに至っています。

これらでは、商店街全体をひとつのショッピングセンターと見立て、業種の偏りを是正、商店街全体のテナントミックス（業種混合支援）を行っているなど、丸亀町全体のタウンマネジメントを推進していることが大きな集客要因になっており、引き続き、丸亀町商店街を中心に小規模連鎖型で再開発を進め、タウンマネジメントの推進により、魅力と活力あふれる商店街づくりを目指します。



A街区



G街区

2) タイムリーな情報発信による回遊促進に向けた試みについて

【香川大学ミッドプラザの取組】

香川大学ミッドプラザは、高松常磐町商店街（トキワ街）を拠点に大学と地域を結ぶ施設です。ここでは、瓦町周辺の商店街に活気を取り戻すための拠点スペースとして、学生による様々な取組、イベント等を行っています。



ミッドプラザ



クリスマスミニコンサート

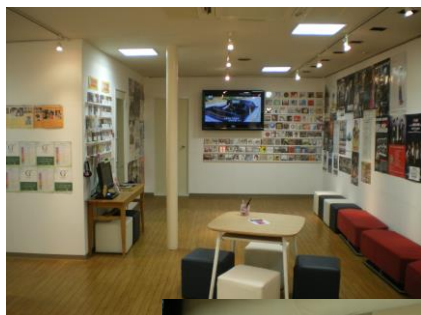


ギターアンサンブル・コンサート

【ブリーザーズスクエアの取組】

ブリーザーズスクエアは「音・楽・街」をコンセプトに創造された、新しいタイプのコミュニケーションスペースです。その中心となるのは音楽。音楽はファッションやデザイン、そして恋だの愛だの、人の心までふくんだ、いわば総合カルチャー。これに含まれる全てのカテゴリーの最新情報を発信し、街を楽しくしていこうというのが、ブリーザーズスクエアです。

ブリーザーズスクエアは、最新の情報を発信するだけでなく、みんなの好奇心や夢をカタチにしていって、街角のオピニオン・ラボでもあり、最新情報と好奇心から生み出されるブリーザーズスクエアのオリジナルな何かが、全国へ、そして、全世界へと広がっていく、そのような壮大な夢も持って取組を進めています。



ブリーザーズスクエア



T-PARTY
(ブリーザーズスクエア HP より)

3) 豊かな居住環境の充実に向けた試みについて

【美術館北通り診療所】

丸亀町参番街（C街区）では、まちなか居住の質を健康・医療面から高めるため、診療所を整備しています。

ここでは、ペインクリニック整形外科、内科、循環器内科、眼科、健診・人間ドック、美容皮膚科、放射線部、検査部、泌尿器科外来、糖尿病外来、スマートエイジング倶楽部があり、診療等を行っています。



美術館北通り診療所



院内ニュースレター
(美術館北通り診療所 HP より)

[2] 都市計画との調和等

中心市街地活性化は、以下の通り上位計画等との整合性をもって進められるものです。

(1) 第5次高松市総合計画との整合

前述の通り、本市では平成20年度から平成27年度を計画期間とする第5次高松市総合計画「新生たかまつ 人・まち 輝き ビジョン」において、次の5つの視点をまちづくりに当たっての基本的考え方としてまちづくりに取り組んでいます。

・ 拡大基調からの転換

人口減少社会や地球環境問題、資源の有限性、厳しい財政状況などを踏まえ、これまでの拡大基調から転換し、自然との共生を図りつつ、より成熟した都市機能を発揮しながら、コンパクトで、持続可能な都市づくりを目指すものとします。

- ・ ソフトの重視
- ・ 州都機能の確保と交流人口の拡大
- ・ 地域コミュニティを軸としたまちづくり
- ・ 地域の未来と活力を支える人づくり

(2) 高松市都市計画マスタープランとの整合

前述の通り、平成20年を計画期間の始期年次とし、都市計画の発展・成熟を想定し20年先の平成40年を目標年次とする高松市都市計画マスタープランを策定しており、将来都市像「『文化の風かおり光かがやく 瀬戸の都・高松』の実現に向けて」の実現に向けて、以下のまちづくりに取り組んでいます。

[将来都市構造の方向性]

- ①都心の広域拠点性の強化
- ②地域の拠点性の確保・強化
- ③都心と地域の連携強化

◆集約型都市構造

- ・コンパクト化を誘導する土地利用規制
- ・効率的な都市施設等の整備

(3) 多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画（平成25年2月策定）

前述の通り、本市では、高松市都市計画マスタープランを踏まえ、集約拠点への都市機能の集積と市街地の拡大抑制によるコンパクトで持続可能な都市構造「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現に取り組むこととしています。

「多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」においては、中心市街地は、四国の拠点都市にふさわしい広域的な拠点性を強化する広域交流拠点に定められ、計画においても重要な位置付けとなっています。

◆集約拠点のまちづくりの方向性

- ・自動車に依存することなく、徒歩や自転車で、多種・多様なサービスが享受でき、暮らしたいと思ってもらえるまちを目指す。

○広域交流拠点でのまちづくりの基本方針

- ・都市機能集積を生かした“生活支援サービスの利便性”が高く“にぎわい”のあるまちづくり
- ・公共交通の利便性を生かした“歩いて暮らせる”まちづくり
- ・人口や都市機能の集積を生かした“コミュニティと安心”のあるまちづくり

(4) 地域活性化総合特別区域(平成24年7月指定)

前述のとおり、本特区では、高松市内の各地域で育まれてきた産業を活性化する内発型まちづくりの観点に立ち、中心市街地と郊外田園地域のコミュニティの再生・連携により、農業、小売業など地域にとって最も基本となる産業の再構築を図り、市民に幅広く支えられる持続可能な「コンパクト・エコシティ」のモデル構築を目標としています。

本特区の目標を達成するために、高松丸亀町商店街回遊性向上事業、総合生鮮市場事業、及び商店街情報発信事業を実施していきます。

〔総合特区の目指す目標〕

- 1) 中心市街地と田園地域の連携による地域産業の再構築
- 2) コンパクト・エコシティの推進
- 3) コミュニティの再生

〔目標の達成に向けて取り組む事業〕

- 高松丸亀町商店街回遊性向上事業
- 総合生鮮市場事業
- 商店街情報発信事業

[3]その他の事項

高松港港湾環境整備事業（玉藻地区）によるまちなか空間づくりや、香川県立ミュージアム文化事業、香川県県民ホール文化事業によるまちなかでの楽しみの魅力強化など、より魅力的なまちなか暮らしを実感できるよう、ハード・ソフトの両面から取組を進めます。